

学校だより学校アンケート号（12月）

お忙しい中、12月の学校アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。2学期は大きな行事があり、また様々な取り組みについて工夫を凝らしながら学校運営を行いました。12月のアンケート結果からは、7月と比較して改善が見られた点もあれば、引き続き取り組むべき課題も明らかになりました。

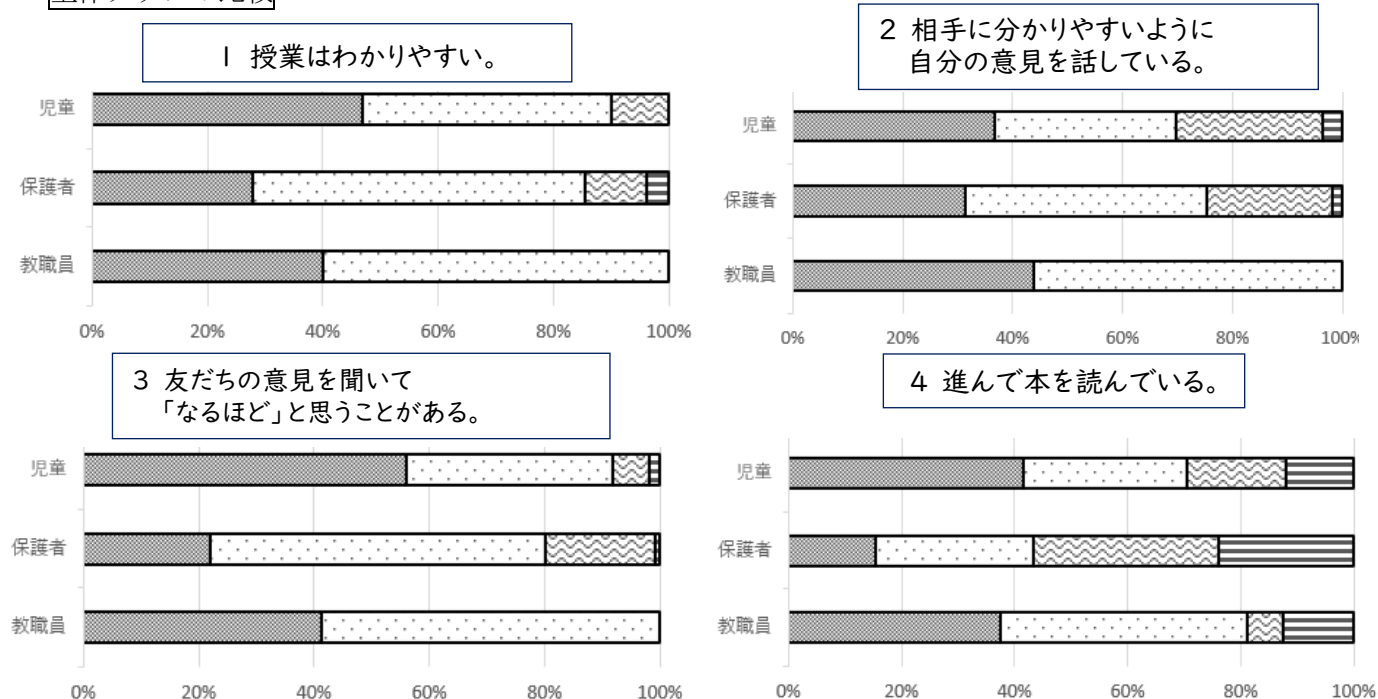
12月の子どもたちのアンケート結果については、3学期の始業式の日全校指導として、「成果＝頑張ったところ」と「課題＝まだまだ伸びるところ」として子どもたちに伝えています。今後も、保護者や地域の皆様と連携しながら、子どもたちの成長を支える学校づくりに努めてまいります。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

なお、尚、表については、7月比で5%以上増加しているものを四角で囲み、5%以上減少したところには下線を引いています。

■出来ている □大体出来ている ▨あまり出来ていない ■出来ていない

資料①【確かな学力】～自ら進んで学ぶ子～

・全体グラフの比較



・学年別（低・中・高）の数値（「出来ている」・「だいたい出来ている」を肯定的な意見として割合を出しています。）

質問			1・2年	3・4年	5・6年	保護者
1	授業はめあてとまとめがはっきりしていて分かりやすい。	7月	90.9%	89.6%	89.2%	83.6%
		12月	90.3%	90.5%	88.9%	85.6%
2	相手に分かりやすいように自分の意見を話している。	7月	81.8%	79.2%	56.8%	76.8%
		12月	83.9%	<u>73.8%</u>	52.8%	75.2%
3	友だちの意見を聞いて「なるほど」と思うことがある。	7月	84.8%	93.8%	94.6%	83.9%
		12月	87.1%	92.9%	94.6%	80.0%
4	進んで本を読んでいる。	7月	87.9%	75.0%	59.5%	43.8%
		12月	83.9%	<u>80.5%</u>	<u>47.2%</u>	43.3%

○成果

- ・どの学年も学習のめあてとまとめを意識した授業が展開されている。
- ・低学年は「伝えること」と「聞くこと」の両方で数値が上がっている。
- ・どの学年も友だちの意見を聞いて「なるほど!」と思うことが多くある。
- ・中学年が進んで本を読むようになった。

△課題

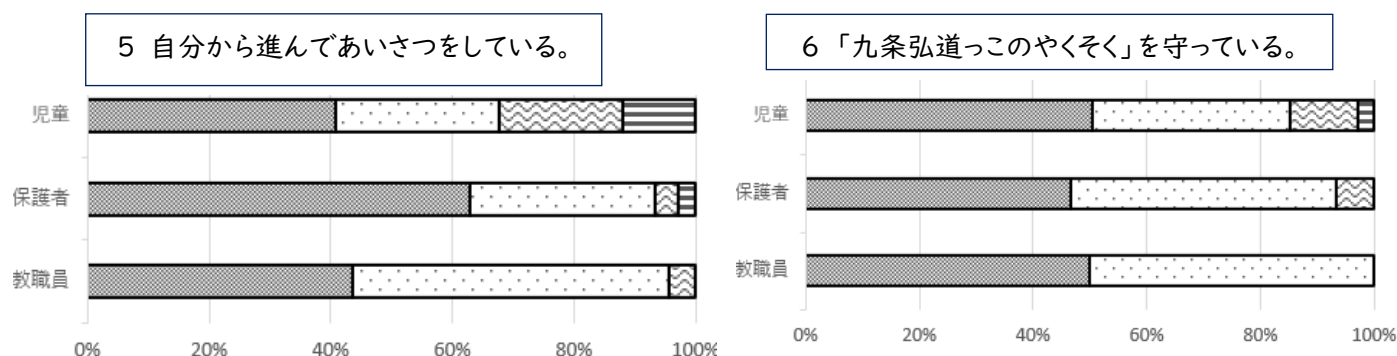
- ・高学年の「進んで本を読んでいる。」の数値が7月比よりも低下した。
- ・学年があがるにつれて、相手にわかりやすいように自分の意見を話すことに苦手意識がある。

⇒今後の方策

- ・「わくわくふれあいアドベンチャー」に向けてどの学年も自分の学びを発信する準備を進め、11月ごろには異学年で中間発表交流を行いました。中間発表は、相手に何を伝えたいのか、伝えるためにはどのような見せ方や方法が有効なのか考えるのに良い機会となりました。行事を通して話す・聞く力の定着を目指すことも大切ですが、「話し方」「聞き方」については、日々の授業から大切にしていきたいと思います。
- ・「読書」は、アンケート結果では低下しましたが、実際の貸し出し冊数は増えてきています。図書委員会やPTAや教職員の読み聞かせは、好評でした。今後も授業で図書館に行く日を設定したり、並行して読書活動をしたりする等して、本が子どもたちにとって身近なものになるように読書環境を整えていこうと考えています。

資料②【豊かな心】～自分も友達も大切にできる子～

・全体グラフの比較



・学年別（低・中・高）の数値（「出来ている」「だいたい出来ている」を肯定的な意見として割合を出しています。）

質問			1・2年	3・4年	5・6年	保護者
5	自分から進んであいさつをしている。	7月	97.0%	81.3%	70.3%	96.4%
		12月	<u>83.9%</u>	<u>73.8%</u>	<u>45.7%</u>	93.3%
6	「九条弘道っこのやくそく」を守っている。	7月	87.9%	95.8%	83.8%	96.4%
		12月	<u>93.5%</u>	<u>90.5%</u>	<u>72.2%</u>	93.3%

○成果

- ・保護者・教職員ともに、「あいさつ」や「きまり」を大切にし、子どもたちに働きかけようとしている。
- ・「九条弘道っこのやくそく」を守ろうとしている低学年が増えた。

△課題

- ・学校全体として自分から進んであいさつをすることが7月よりも下がっている。
- ・学年があがるにつれて「九条弘道っこのやくそく」を守れている割合が少なくなっている。

⇒今後の方策

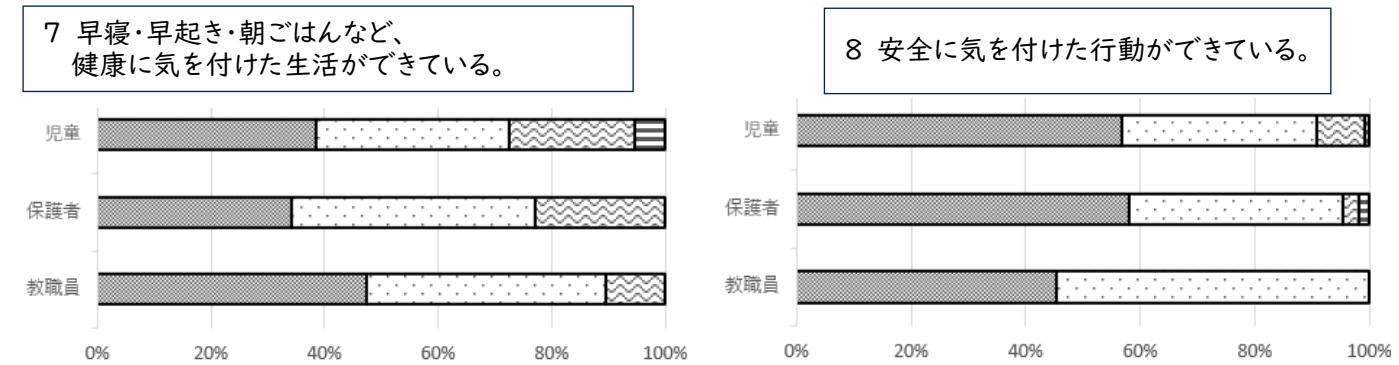
- ・「あいさつ」は、児童会が中心となり、朝のあいさつ運動をしたり、人権月間でもあいさつについて伝えたりし

ました。実際に毎朝正門で子ども達を待っていると「おはようございます」と言える児童が増えていたり、今まで自分からあいさつできなかった児童が自分からあいさつするようになってきたりしていると感じています。また、学校生活で「いただきます」や「ありがとうございます」、「よろしくお願いします。」等のあいさつも進んで自分から言っています。しかし、実際に子ども達を感じている「あいさつ」というものの多くは「おはようございます」のみだと感じているようです。朝のあいさつについては引き続き声をかけていきたいと思います。また、子どもたちには日常生活には多くの種類のあいさつがあることを伝え、「おはようございます」や「さようなら」「ありがとうございます。」等も含めて、自分から進んであいさつができるように伝えていこうと思います。

あいさつは地域の防犯を高める効果もあります。引き続き地域・家庭でも見守っていただけたら有難いです。

資料③【健やかな体】～健康でたくましい子～

・全体グラフの比較



・学年別（低・中・高）の数値（「出来ている」「だいたい出来ている」を肯定的な意見として割合を出しています。）

質問			1・2年	3・4年	5・6年	保護者
7	早寝・早起き・朝ごはんなど健康に気を付けた生活ができている。	7月	81.8%	85.4%	64.9%	85.7%
		12月	83.9%	83.3%	50.0%	77.1%
8	安全に気を付けて行動している。	7月	93.9%	97.9%	91.9%	96.4%
		12月	96.8%	88.1%	88.9%	95.2%

○成果

- ・低・中学年児童は「早寝・早起き・朝ごはん」など、健康に気を付けた生活ができている児童の割合が多い。
- ・児童は安全に気を付けるという意識がもてていて、行動も比較的できている。安全に対する保護者や教職員の意識も高い。
- ・身体計測時の保健指導や毎月の生活指導時の声かけは引き続き行えた。また、「いきいき週間」は時期によって「テレビ等の視聴時間」や「十分な睡眠時間の確保」等、特化する項目を設定できた。低学年・中学年は規則正しい生活習慣を送れている児童が多くいる。

△課題

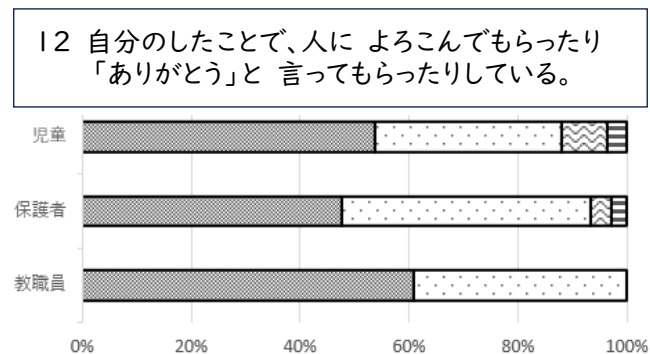
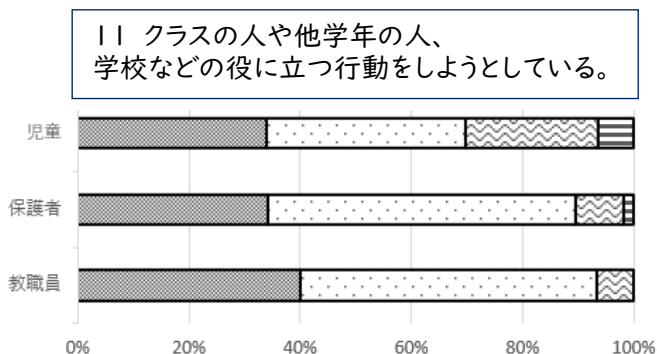
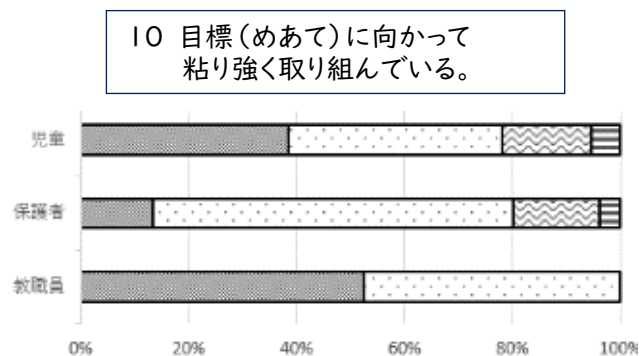
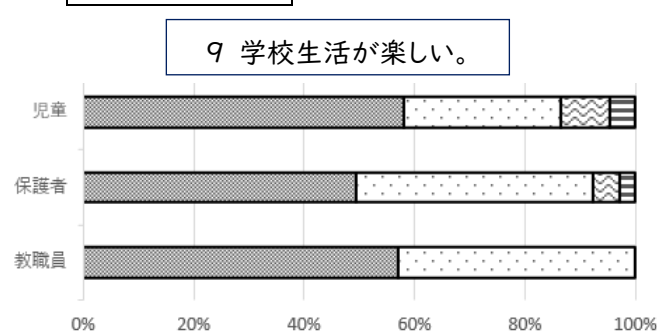
- ・早寝・早起き・朝ごはん等、健康に気を付けた生活について、高学年に課題がみられる。

⇒今後の方策

- ・健康に気を付けた生活について、保護者・教職員ともに意識して児童への働きかけはしています。子どもたちの実態は学年が上がるほど生活習慣が乱れがちです。高学年になれば自分の睡眠時間を確保することから、引き算してその日の過ごし方を計画立てて欲しいと思います。2学期のいきいき週間では、学校での児童への声かけや保護者の皆様からの働きかけでその週のパソコンやスマートフォン等の視聴時間に改善がみられました。自分たちで気づき、考えて行動できるように、引き続き「早寝・早起き・朝ごはん」や情報教育に関わる内容について指導を進めていきます。

資料④【学校独自アンケート】

・全体グラフの比較



・学年別(低・中・高)の数値 (「出来ている」「だいたい出来ている」を肯定的な意見として割合を出しています。)

質問			1・2年	3・4年	5・6年	保護者
9	学校が楽しい。	7月	81.8%	89.6%	81.1%	94.6%
		12月	83.9%	92.9%	<u>73.3%</u>	92.4%
10	目標にむかってねばり強く取り組んでいる。	7月	81.8%	83.3%	81.1%	76.6%
		12月	83.9%	88.1%	<u>61.1%</u>	80.0%
11	クラスの友だちや他の学年の役に立てるように行動している。	7月	87.9%	64.6%	73.0%	88.4%
		12月	<u>77.4%</u>	69.0%	<u>63.9%</u>	89.5%
12	自分のしたこと、人に喜んでもらったり「ありがとう」と言ってもらったりしている。	7月	87.9%	87.5%	67.6%	94.5%
		12月	<u>96.8%</u>	87.8%	<u>80.6%</u>	93.3%

○成果

- ・学校生活を楽しく感じている児童が多い。特に中学年で数値が高い。
- ・低学年・中学年で目標に向かって粘り強く取り組んでいる児童が多い。
- ・人に喜んでもらったと感じている児童が学校全体で多く、低学年・高学年で数値が大きく上昇した。

△課題

- ・学校が楽しくないと感じている児童、粘り強く取り組むことが難しい児童は一定数いる。

⇒今後の方策

- ・2学期以降は、大きな行事や他学年との交流、また、外部講師を招いた授業を展開するなどして、「出あい」や「学び方」を広げる機会を取り入れました。児童は、いつもよりも積極的に活動できており自ら学びに向かうことができていました。学年末には学年の集大成として、クラスのまとまりを感じられるようにしたり、6年生の卒業をお祝いする学校全体の取組を大切したりする等して、自己肯定感や自己有用感を高められるにしていきたいと思います。

○上記の指標、分析を学校運営協議会の理事会で報告し、ご意見をいただきました。

・「わくわくふれあいアドベンチャー」での子どもの発信する姿はとても良かった。昨年度と比べてもよく話すようになってきており、学年の枠を超えた縦割り活動や合同学習の経験が積み上がってきていると感じた。また、学年が上の子どもたちにとって、下の子どもたちに向けて発表をしたりお世話活動をしたりすることは双方にとって良い経験になる。今後も引き続き取り組んで欲しい。また、様々な外部講師を呼んで学習していることも豊かな学びに繋がっていると思う。学習で地域が必要な場合は協力するので声をかけて欲しい。

・本をタブレットで読む時代になり、読書から活字を学ぶことが難しい時代になってきている。また、ネット社会の影響が子どもたちの生活習慣に影響が出てきている。情報機器との付き合い方が今後さらに大切になってくる。

・地域の南図書館や戒光寺公園にも図書に触れる場所があるので、ぜひ九条弘道小学校の子どもたちも施設を利用して欲しい。

・子どもの減少に伴い家庭数が少なくなっており、PTA 活動の内容変更や縮小をすることも仕方のないことだと思っている。その中で PTA が野球教室やサイエンスバブルショー等を開催して、子どもたちに様々な経験をさせることはとても貴重なこと。地域での行事も行っているので、積極的に参加して欲しい。人数は少ないが温かみのあるにぎやかな学区にしたい。子どもたちに参加の声かけをお願いしたい。

・安全標語作りにおいて子どもたちの安全や防犯、防災への意識の高さを感じることができて感心した。子どもが、安全意識を高めていく必要もちろん大事だが、引き続き周りの大人も安全意識を高め、地域全体で子どもを見守らなければならない。